



コロナ禍における工夫 part2

「わくわく通信」86号でお知らせした通り、リコーダーは、飛沫防止のための工夫によって演奏が可能となっています。しかし、音楽の授業では、鍵盤ハーモニカも使いますので、「どう工夫すればできるか」の視点で考えていました。すると、飛沫防止のためのアイデアが浮かびました。それはマスクを活用して飛沫を防止するという方法です。**※不織布マスク**を使います。

まずマスクを一枚準備します。右図のように、マスクを縦4分割、横4分割をめどに切り分けていきます。マスクには、縫い目もありますが、それも残しながら切り分けていくと、マスクがばらばらにならず

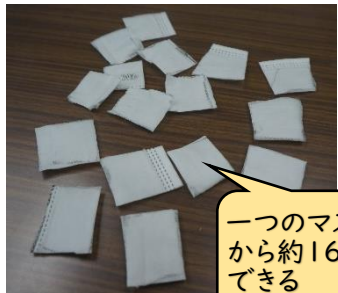
(層状になっているため)、扱いやすいです。そして、切り分けたマスクのパーツの一つを、鍵盤ハーモニカのパイプと差込口に挟みます。そうすることで、マスクのパーツが飛沫を防ぎ、ウイルスをそ

こで止めおきます。もちろん演奏する際は、マスクの下から演奏用パイプを咥えての演奏となりますが、かなりの飛沫感染対策となり得ます。教育委員会にもこの方法でいいか確認したところ、大丈夫という回答を得ています。

そこで、音楽の時間に鍵盤ハーモニカを使う予定のあるご家庭は、マスクを上図のように**カットしていただいて、ビニル袋等に入れて持たせてください**。音楽の時間に有効活用しますので、ご協力をお願いします。

リコーダーのお願い

リコーダーは「わくわく通信86号でお知らせした通り、ホースを切ってリコーダーの拭き口に取り付けて、マスクの上から咥えて演奏しています。しかし、ホースの径がAULOS(アウロス)のリコーダーと合わせて作っていますので、その他のリコーダーでは細く抜けやすくなっています。そこで、抜けないように音楽専科の方でマスキングテープを巻いて調整しています。お子様が**AULOS(アウロス)のリコーダー以外の場合、マスキングテープを持たせていただくと学校で調整**しますので、**大変助かります**。



一つのマスクから約16個できる



ここに切ったマスクを挟む



ここにマスキングテープを巻いて調整